ヴェーダ

世界最古の聖典ヴェーダは、太古の聖者たちが悟りの意識の中で聴いた神の真実の言葉を集めたものです。そのメッセージは、国や宗教や身分を超えて、個人と社会に平和と安全をもたらすものであるとスワミはおっしゃいます。最近、ヨーガ教室で唱えられるようになり有名になったガーヤトリー・マントラも、ヴェーダに収められているマントラです。

ヴェーダは、インドにおいて、口承によって師から弟子へと今日まで受け継がれてきました。しかし、近代化の波に押されて、その伝統は急速に衰退しつつあります。「ヴェーダ詠唱の伝統」は、2009 年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。

スワミはヴェーダの復興を使命とされて、世界中の誰もがヴェーダを学び、ヴェーダの原理を生活に適用する必要があると訴え続けておられました。その音自体が場を清め、人の心を清める力を持つヴェーダは、間違った発音で唱えると逆によくない影響を及ぼしてしまうため、一つ一つの単語をサンスクリット特有の発声法で正確に唱えなくてはなりません。

サティヤ・サイ・オーガニゼーション・ジャパンでは、日本に仕事などで滞在されているサティヤ・サイ大学卒業生の方々をサイセンターにお招きして、各地でヴェーダクラスやセミナーを開き、正しい発音と抑揚でヴェーダのマントラ（真言）を唱える方法を学習してきました。現在では日本人でも、インドのスワミのアシュラムでヴェーダを唱え、高い評価を得られるまでなりました。これからヴェーダの吟唱を学習したいと思われている方は、まずは最寄りのセンター・グループで行われているヴェーダクラスやセミナーにご参加いただくことをお勧めいたします。

ここでは、スワミのアシュラムで販売されているヴェーダテキストを原本として、日本人でも唱えやすいように独自のカタカナ表記を採用した日本語訳付ヴェーダテキストと、ヴェーダの音源をダウンロードできるようにしていきます。

なお、サティヤ・サイ出版協会では、こちらのウェブ版では省かれているサンスクリットのデーヴァナーガリー表記が入ったテキストを販売しています。

『ヴェーダテキスト１』
http://www.amazon.co.jp/ヴェーダテキスト-サティヤ-サイ-オーガニゼーション-ジャパン霊性部ヴェーダ委員会/dp/4916138686

日本において一人でも多くの方がヴェーダを知り、唱え、聴き、その教えを実践して、すべての人と社会が平安と幸福に満たされますように、お祈りいたします。

2006 年 8 月 9 日アティ・ルッドラ大供犠祭開会式におけるスワミのご講話からの抜粋

不幸なことに、今日（こんにち）、ヴェーダは十分に保護されていないため、卓越した地位を失っています。ヴェーダを真剣に学びヴェーダに含まれるマントラを定期的に唱える人は、とても少なくなってしまいました。ヴェーダを規則的に学びヴェーダの指示を実践するなら、人間はあらゆる種類の富を授かります。ヴェーダには人の生活と運命を支配する基本的な原理が含まれています。ヴェーダは全人類の幸福のための神からの贈りものです。ヴェーダは宗教やカーストや国籍その他をもとに区別をするようなことはありません。ヴェーダのマントラはすべての人が唱えることができます。
（スワミはここで、プラシャーンティ・ニラヤムで学んでいる外国から来た二人の少年をお呼びになり、「シュリー讃歌（スークタム）」を唱えるようにおっしゃいました）。

宗教やカーストや国籍によらず、すべての人がヴェーダを学び、唱えることができるように、すべての国にヴェーダが広がることがスワミの望みです。おとといイランとイラクから何人かの人が来ました。イランからの帰依者たちはまだここにいます。私たちはヴェーダをこうしたすべての人々に教えようと努めています。ヴェーダはあらゆる種類の悲しみを取り除きます。今執り行われているヤグニャは、男児を授かるための供犠（プットラ カーメーシティ ヤーガ）や、馬供犠（アッシワメーダ ヤーガ）といった他の儀式とは異なります。このヤグニャは全人類の幸福のためのものです。少ないながらも幸運な人たちは、ヴェーダを学び、広めています。しかし、不運なことに、多くの人々は、ヴェーダを学んでもヴェーダを教える努力をまったくしていません。現在、シュリ・サティヤ・サイ教育機関のすべての生徒にヴェーダが教えられています。人はヴェーダの学習の準備段階として、ヴェーダの言葉であるサンスクリット語の知識を得なくてはなりません。

最近、どの国の人々も、ヴェーダ、特にリグヴェーダを学ぼうと努力しています。それに加えて、ヤジュルヴェーダやサーマヴェーダ、アタルヴァナヴェーダ〔アタルヴァヴェーダ〕も学んでいます。ヴィナイ・クマールはカルナータカ州の青年部の統括世話人に任命されています。彼はカルナータカ州の青年たちを一堂に集めてヴェーダを学ばせ、ヴェーダのメッセージを広める役割を任されています。同様に、アーンドラ・プラデーシュ州やケーララ州等、インドのすべての州において、青年部の統括世話人が任命されています。それだけでなく、ヴェーダとヴェーダの吟唱を広めるために、世界のすべての国々のサティヤ・サイ・セヴァ・オーガニゼーションにおいても、青年部の統括世話人が任命されています。

ヴェーダが軽視されてはなりません。全創造の神秘がヴェーダの中に含まれています。ヴェーダは人生のゴールと目標を定めています。創造、維持、破壊に関するすべての事柄がヴェーダの中に含まれています。学生期(ブラフマチャルヤ)、家長期(グルハスタ)、林住期(ヴァーナプラスタ)、遊行期(サンニャーサ)といった人生(アーシラマ)の段階は、ヴェーダを起源としています。人々は今、ヴェーダの栄光を認識することができます。皆さんがどこへ行こうとも、村においてさえ、女性もヴェーダのマントラを唱えているのを見ることでしょう。男性と女性では身体のつくりが異なるかもしれませんが、ことヴェーダの学習に関して言えば、まったく何の違いもありません。

『アティ ルッドラ大供犠祭』p15～17